

2 0 0 4 - 2 0 0 7

# YU-NAGI



## PAST PHOTO POEM 2004-2007 「YU-NAGI」

summarizes the photo poem  
that had been posted  
on the Excite blog "YU-NAGI"  
in 2004-2007.

Title: YU-NAGI

Photo&Poem: さくらいまさゆき

Mal: [info@slolab.net](mailto:info@slolab.net)

Site: まほらのまぼろし

<http://mahola.xsrv.jp/maboroshi/>

blog: 短歌で紡ぐ架空の恋

<http://fictitiouslove.blog.fc2.com/>



## Amami-Oshima



### 過去

大切ななにかを

置き忘れてきたような

気がするんだ

### 届かない思い

せつなくてせつなくて

届かない思いは

空に消えてしまった



# Amami-Oshima

---



## 居場所

理由はないんだけど

ここに来ると

なんかほっとするんだ

## 道

きっと大丈夫

この道は

つながっているはず

だからまっすぐ進もう





# Nagano

## やわらかな夜

やわらかな夜に  
包まれて  
少しだけ  
優しい気分になる



## つづく

やわらかな夜は  
つづく つづく  
どこまでも  
果てしないかのように  
つづく つづく

# Nagano

---

## きらめき

このきらめきを

閉じ込めて

ふたりだけのものに

してしまおう



## 同じ空

この空と空は

つながっていても

この心と心は

大きくかけ離れたまま

くつつかない



# Nagano

---



## あのとき

しっかりと  
手をつないでいれば  
こんなことには  
ならなかったの  
かもしれない

---

## 遠い記憶

遠い遠い昔  
確かに僕は  
ここにいたと  
思わせる  
何かがある場所



# Nagano

---

## リセット

探さないで

私がいなくなったとしても

今までのことを全て消してしまって

別の生活をするから

忘れて

私がいたということも

逃げても何も解決しないかもしれない

それでもいいから

拭いきれない、隠しきれない、

失いきれない

それでもいいから

もうリセットしちゃうよ





## Kusatsu



### 流れる想い

気持ちと一緒に

ぼやけてしまう

流れるように

流されるように

漂泊されてゆく

### 続く

見送りに

行かなかったのは

さよならを

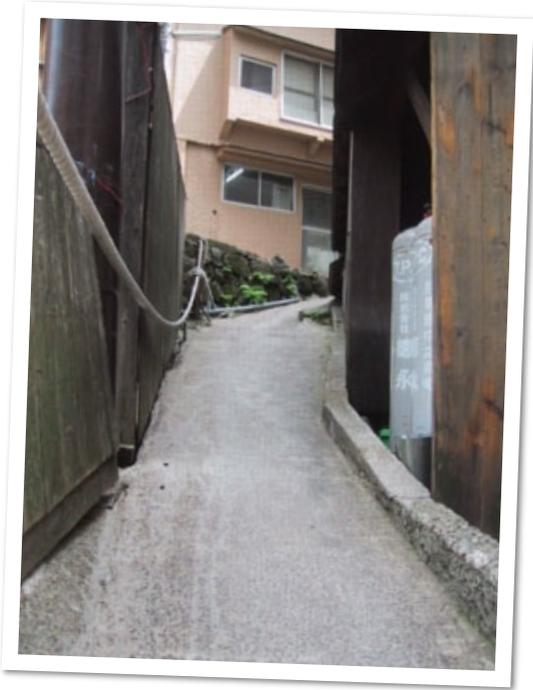
言わないため

まだ終わりには

したくないんだ



# Kusatsu



## 下り坂

この坂が

下り坂に見えて

しょうがない

ふたりでいた時は

こんなこと

感じなかったのに

## 椅子

あなたが

いないということを

痛感させられた

私ひとりでは

埋めることのできない

ふたつの椅子



# Kusatsu

## 変わらない道

変わらない道

変わらないからこそ

気づくことがある

君がいない

君がいないからこそ

気づくことがある



## 同じ道

いつもと同じ

思い出の道

いつもそこにある

同じように

そこにある

それが

大切ということ



# Kusatsu

## 心の君

あの時と同じ

あの時と変わらない笑顔

昔のままの君がいた

同じように

そこに立って微笑んでいる

それが、ボクはうれしかった

心の君がそこにいた



## 心の君

それは微かな

希望だった

昔のままの君を

心の君を

もう一度

見たいという

ボクの希望だった



# Kusatsu

## 束縛

気がついたら  
がんじがらめに  
なっていた



## 束縛

縛られることは  
心地よくもあり  
苦痛でもあることを  
そのとき  
初めて知った



# Kusatsu



## 夢見

絶望的な

夢を見た

ここから先へ

行けない

あなたに

会えない

そんな夢を

## 蒼の軌跡 1

蒼に染められた

ひとつひとつの

足跡を辿って

確かめてみる

幻ではなかったと

証明するために



# Kusatsu

## 蒼の軌跡 2

蒼に染められた

僕らの軌跡

辿っていけば

更なる

蒼の軌跡



## ゆるり

浴衣を着て

歩いたこの街

この空気も

この匂いも

まだ体が

覚えている

# Kusatsu

## ゆるりゆるり

ゆるりゆるり

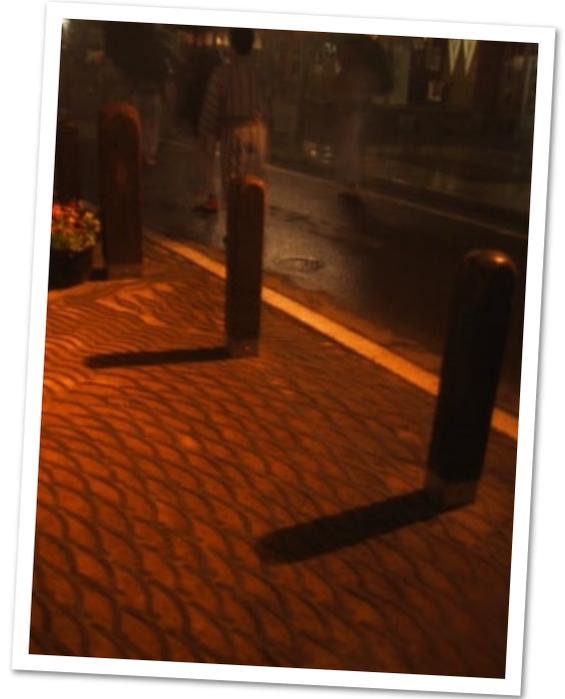
漂うように

ゆるりゆるり

抜けるように

気持ちの糸が

ほどけてゆく



## 見えない出口

見えそうで

見えない出口

あと少しだけ

時間をください

そうすれば

何か答えが

見つかりそうな

気がするから

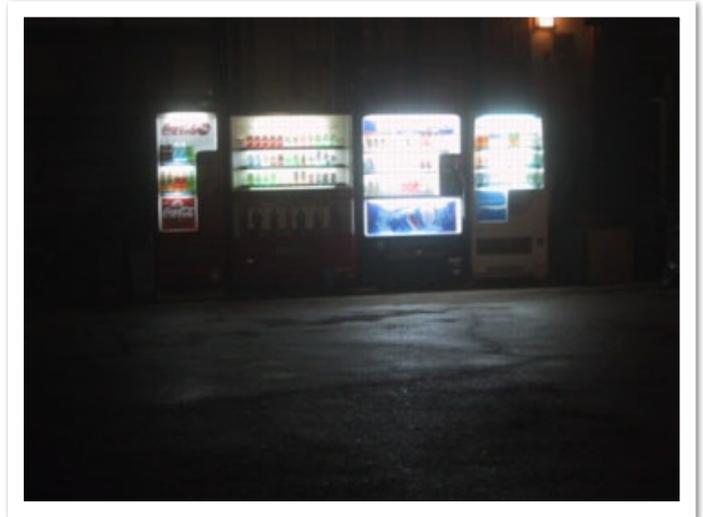


# Kusatsu

---

## 追いかけて

まだ愛している  
その言葉を  
聞きたくて  
君のあとを  
追いかけてきたんだ



---

## 灯火

あ那时的のような  
情熱はないけれど  
絶えず君を  
照らすだけの  
明かりは  
持ち備えてる  
つもりなんだ



# Kusatsu



## 君を探す旅

この旅は

君を探す旅

たとえこの先が

行き止まりだろうと

君を見つけるまでは

あきらめることなど

できやしない

## 匂い

さっきまで

君がいたような

気がするのに

僕が来るのを

見透かしたように

君の匂いは

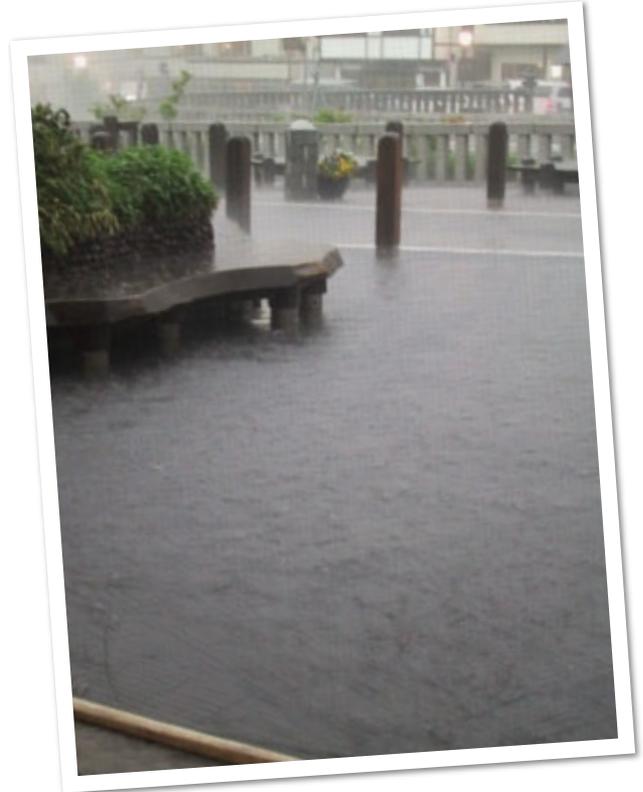
消えてしまった



# Kusatsu

## 涙雨

終わりのない旅は  
もうここでおしまい  
急に降り出した  
雨の先には君の姿  
見かけた瞬間に  
たまりかねたように  
涙があふれでた



## 鼓動

高鳴る鼓動

震える唇

君を目の前にして

ためらいながらも

声を出してみる

ありったけの

勇気を出してみる



# Kusatsu

## 雨上がり

雨があがって

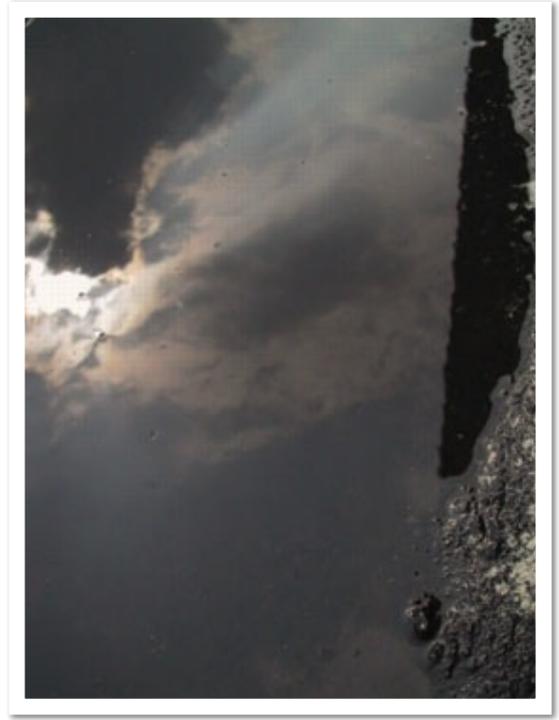
雲間から

光が

射し込んで

光の束が

僕らを照らす



## 光が射して

光が射して

浮かび上がった

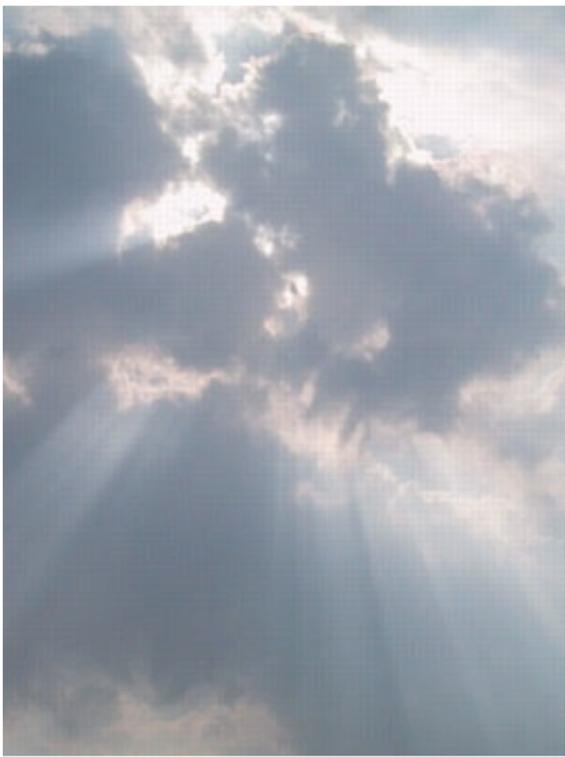
ふたつの顔は

うれしいような

恥ずかしいような

泣きたいような

そんな顔をしていた



# Kusatsu

## 僕の思い

一緒に帰ろう

そう言って

手を差し伸べた

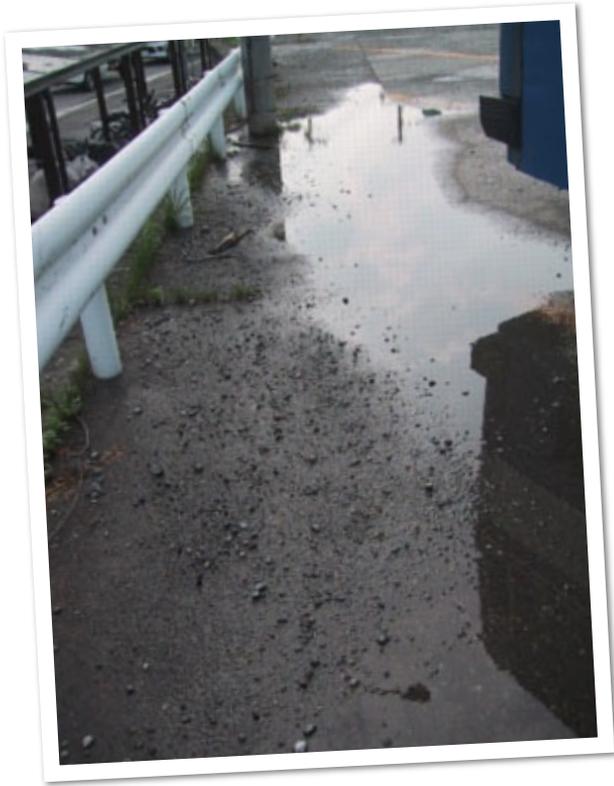
もう一度君が

僕の手を

とってくれるように

僕の思いが

君に届くように



## 想涙

苦笑いしたかと

思った瞬間

君は泣き崩れ

僕の手を

通り過ぎて

抱きついてきた



# Kusatsu

## 安堵

見つかった

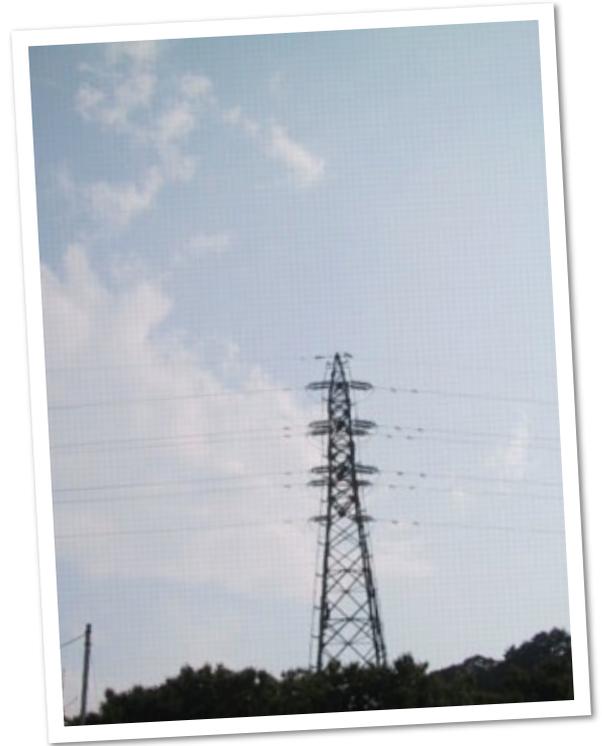
言葉を探し

あぐねている

そんな感じで

君はぽつりと

つぶやいた



## 君の声

君の声が

君の温度が

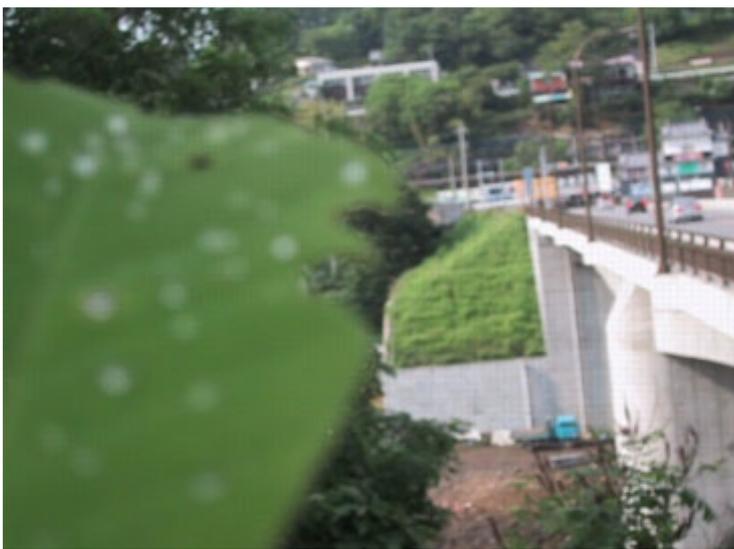
僕の体に伝わって

もっともっと

いとおしくなって

きつくきつく

君を抱きしめた



# Kusatsu

---

## 誓い

もう離さない

君を離さない

二度と離さない

誓いの言葉のように

何度も繰り返す

僕たちが

はじめて出逢った

この場所から

もう一度始めよう





# Sapporo



## 暖めてくれるもの

ぽっかりと穴が空いたけど

そこに埋まったものは

じんわりとじんわりと

僕を暖めてくれる

## 伝わる

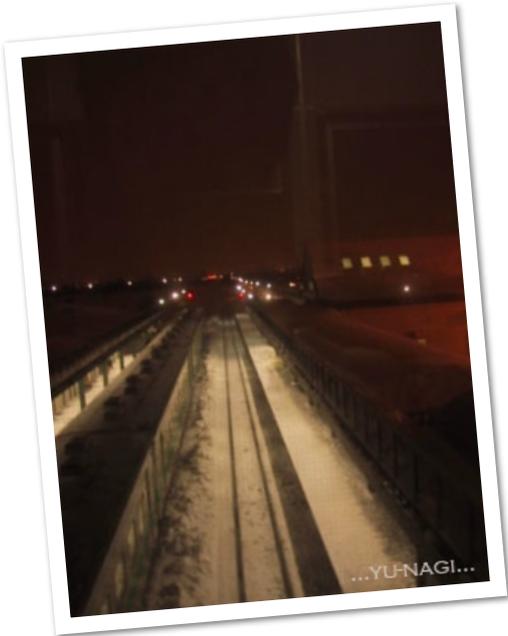
じんわりが広がって

暖かさが伝わってゆく



# Sapporo

---



## 封印

悲しみの中にこそ

真実がある

たしかにそうだったはずだ

あの時までは

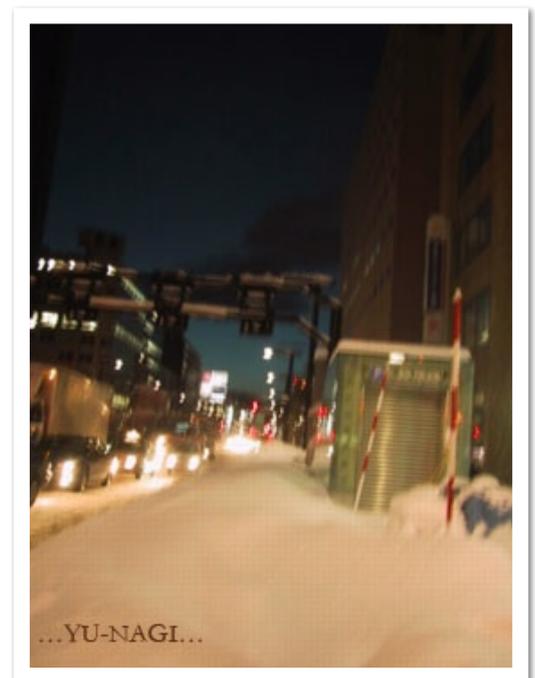
## 無言

どうしてだろう

僕が悪いことでもしたのかな

黙ってないで

お願いだから何か言って



# Sapporo

---

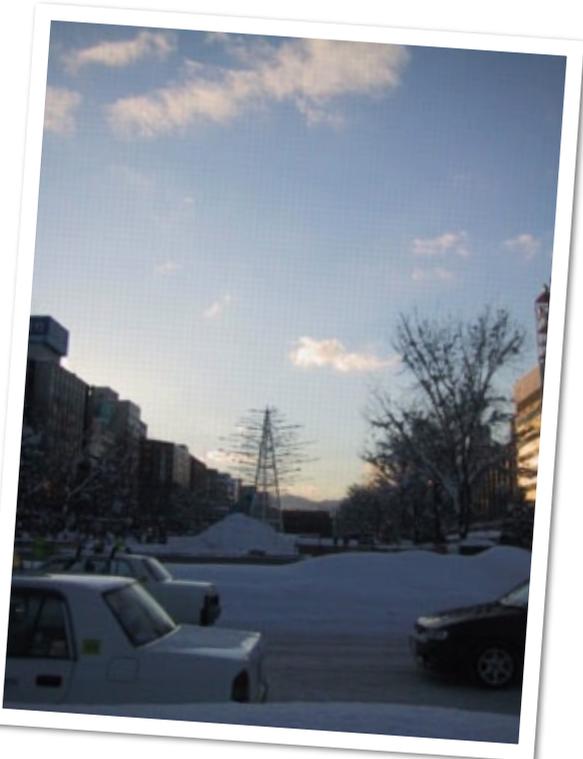
## 別離

離れていても  
つながっている  
そう信じて  
ここで生きている



## この場所から

君を二度と離さない  
そう誓ったこの場所を  
今僕はひとりで  
渡ろうとしている



# Sapporo

---



## 胸を張って

後悔なんてしていない

たとえ誰に非難されようとも

これで正しかったと

胸を張って言うことができる

## 上を向いて

泣きたい日も

笑えない日も

上を向いて歩けば

きっといいことがあるよ





## Otaru



ここにあらず

涼しげな顔を

していてもわかる

君の心は

ここにあらずということ

真っ白

ああ なんだか

この海を見ていたら

頭の中まで

真っ白になってきた



# Otaru

---

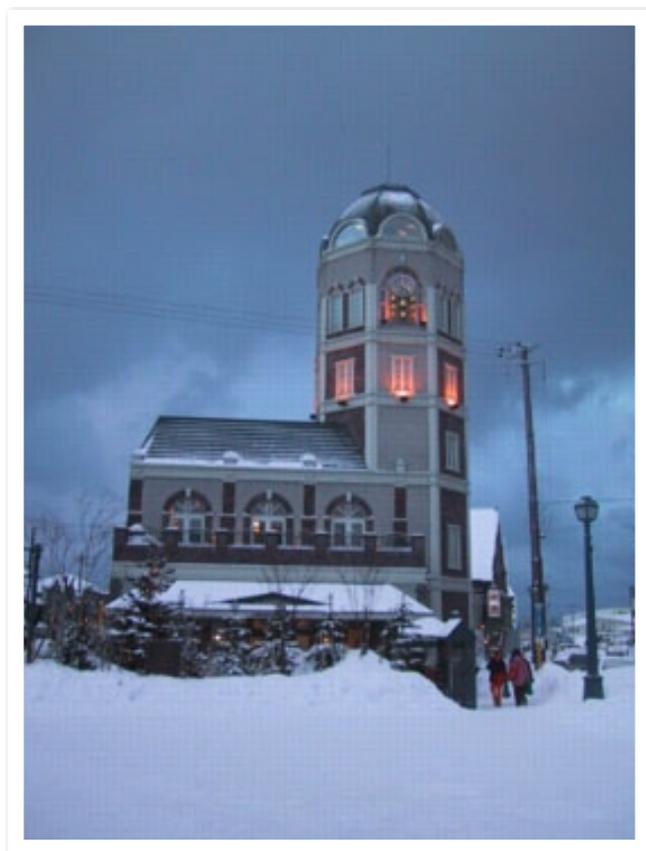
## 初恋

凜としていて

どこか悲しげな

感じのする

君が好きだった





# Tokyo



## 追慕

心は未だ

春の季節に

追いつかず

取り残されたまま

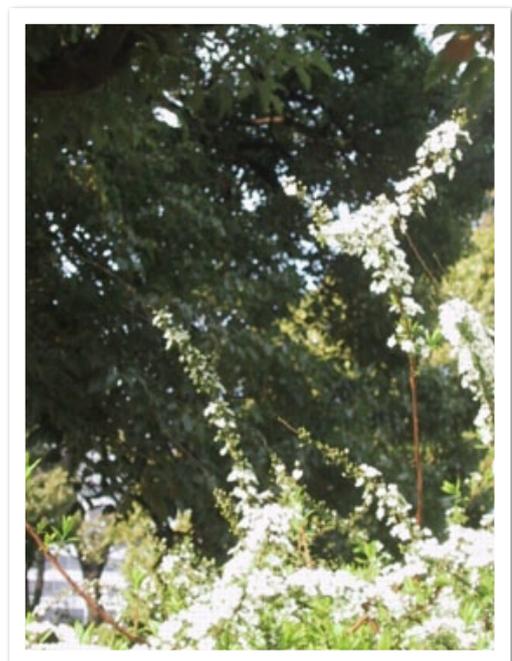
## 光の中で

背筋を伸ばして

光を浴びて

大好きな

自分になる



# Tokyo

---

## 接近



吸い込まれるように

僕は君に

近づいてしまった

---

## 眩惑

眩いばかりの

君の姿を

直視することが

できなかった



# Tokyo

---

## 春恋

思い通りに

ならない

恋だから

いいのかもしれない



## 春恋

だから

君のことを

好きになったの

かもしれない



# Tokyo

---



## 桜空

こんなにも

待ち望んでた

君のことを

---

## 桜空

言えなかった

この気持ち

空へ向かって

解きはなす

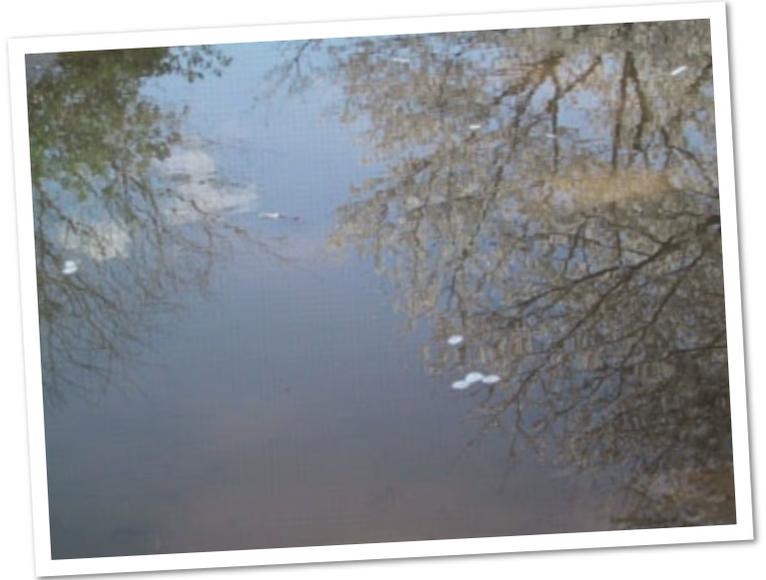


# Tokyo

---

## 桜散る

もう少し前に  
君と出会いたかった



## 桜散る

染まる前の  
君と出会いたかった



# Tokyo

---



## 生まれた場所

新しい一日の

始まりは

生まれた場所から

## 優しい光

あなたの

やさしさが

見えたのが

うれしかった



# Tokyo

## あれから

あれから

自分は変わることが

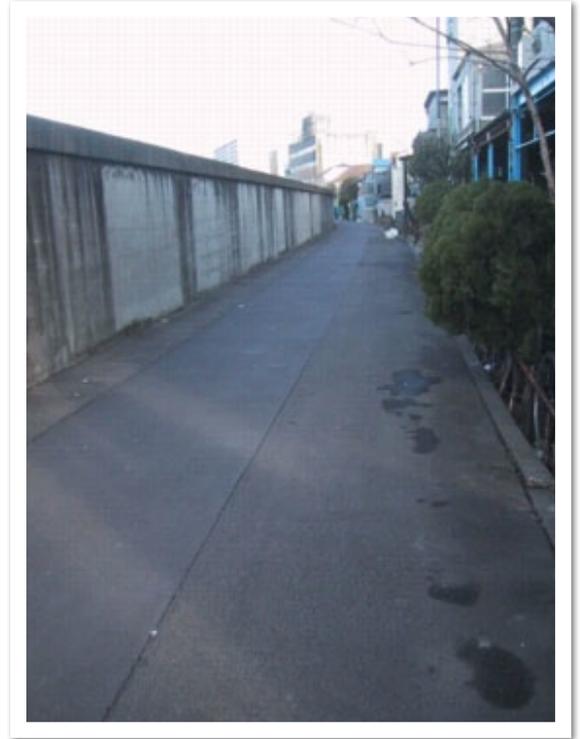
できたのだろうか

それとも

何も変わらないまま

ここまで

来てしまったのだろうか



## 清空

清算してみることに

それはそれで

悪くないのかもしれない

もう一度やり直せる

まだ間に合うよ

# Tokyo

---

## この願い

いつでも

どこでも

見守って欲しい

この空のどこかで

つながっているのなら

この願い

叶えて欲しい



---

## 透明な時間

透き通るような

光の束が

僕らを照らし

うっすらとした

透明な時間が

やってくる



# Tokyo

## 確かなるもの

忘れたいという

思いが

強まるたびに

君のことを

思いだしてしまう

そしてここに

確認しに来てしまう



## 戻れない場所

誘われるような

この明かりは

懐かしいような

淋しいような

戻りたいような

戻りたくないような



## About Yu-Nagi

2004年から、はじめた写真詩ブログ「YU-NAGI」をまとめたものが、この詩集になります。当時まだどこに、誰に、何を伝えていいのかわからなかつた頃の僕が懸命になって言葉を探し、写真を撮り、形にしようとしていたんですよね。今では笑ってしまいますが、こんなに短い詩なのに、何日も、下手をすると何週間も悩んで、悩み抜いて紡いだ言葉たちなんです。あれから、10年以上経って、久しぶりに読んでみると、懐かしいし、もっと誰かに見てもらいたいなと思えたので、こうやってまとめてみました。以下、各章の解説になります。



### Amami-Oshima

奄美大島に行ったときの写真はなぜだか白茶けています。それもそのはず…。シーズンオフの真冬に訪れたんですよね。だからなのか、そこに載せた詩もどこか寂しげなものが多かったですね。

### Nagano

長野旅行したときのことは、今でもありありと覚えています。なぜかという、はじめて一人旅行をしたからです。しかも、友人と行く予定だったのが、突然のキャンセルでひとりになったという思い出旅行です。このときは少し物語を意識して詩も書いていますね。





## Explanation of Yu-Nagi

### Kusatsu

草津の写真詩は力入っていましたね。彼女と別れてしまった後に、彼が草津まで追いかけるという設定で作ってみたものです。これが思った以上に大変で、この後息が切れてしまったんですよね。



### Sapporo

地元である札幌の景色です。ここは僕の中では冬が似合う場所なんですよ。だから、雪景色を撮りたくなっています。そして、いろんな思い出があるからこそ、悲しい詩を書いてしまいたくなる場所でもあるんですね。



### Otaru

北海道・小樽の景色でしね。たしか、もっとたくさん書く予定だったのが、言葉がでてこなくてわずか3つで終わったんだと思います。



### Tokyo

住んでいる場所というのは、今の場所だから、案外感傷に耽ることができないんですよ。だからなのか、懐古的な詩を敢えて書いていましたね。

# At The Conclusion

最後まで読んでくださってありがとうございます。ここでひとまず終わりとなります。今後も、こういった形式で、過去の写真詩をまとめてみたいと思っていますので、興味のある方は続報を待っていただければうれしいです。そして、やはり本好きな自分としては、電子書籍という形ではなく、触れることのできる紙の本をつくりたいという思いがあります。これも、近いうちに何かの形にしていければと思っていますので...。買ってもいいという方は、個人的にご連絡をください。こうやって、あなたの目に触れたこと、出会えたことに感謝します。また、どこかでお会いしましょうね。

2016.1.14 さくらいまさゆき

## About Author

さくらいまさゆき (masa)

1974年生まれ、東京在住。

SNSやサイトなどを使い、詩、短歌、写真、カフェなどの情報を公開中。

2015年5月に、写真詩サイト『まほらのまぼろし』を開設。

[\\*まほらのまぼろし...写真詩サイト](#)

[\\*カフェと珈琲とスイーツがある日常...カフェポータルサイト](#)

[\\*読書メーターのページ...masaで登録しています](#)

[\\*Facebookのページ](#)

お問い合わせ・感想などは[お問い合わせフォーム](#)からお願いします。

